

第5章 求職者支援制度利用者の訓練前後の変化 (訓練前調査・訓練後調査の比較)

本章では、訓練前後の変化について、おもに意識面の変化に焦点を絞って検討を行った。意識面の変化に特に着目した理由は、以下の3点にまとめられる。

第一に、職業訓練の効果は一義的には文字どおりの職業スキルの習得に現れると考えられるが、特定の職業スキルが身についたか否かは実際のスキル活用場面で示されるのみならず、それに先立って意識面に現れると考えられたことによる。第二に、実際、従来のキャリア心理学的な研究の多くは、職業スキルそのものの測定は難しいが、職業スキルをうまく使えるという自信や自覚のような意識（例えば、自己効力感など）は職業スキルそのものの良い予測因となることを示してきた。そこで、職業スキルを意識面から捉えることによって、ある程度までは職業スキルそのものの習得を予測し、見通すことができる。第三に、意識面からのアプローチをとることによって、職業スキルの、具体的にどの側面でスキルの伸長がみられ、どの側面ではあまり見られなかったのかを細かく分析することができる。たんに職業スキルが身についたか否かのみならず、どのような属性をもつ制度利用者がどのような側面でスキルを身につけたと感じているのかは、今後の求職者支援訓練制度を考える上でも重要な情報を提供するものと考えられる。

以上の問題意識から、以下に、本章では、職業スキル・生活スキル・キャリア意識・就職意識の大きく4つの側面から、訓練前後の意識変化およびそれに影響を与える要因について分析を行うこととする。

1. 訓練前後の変化の全般的特徴

(1) 職業スキル・生活スキルの変化

図表5-1に、職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化を示した。本調査では、訓練前と訓練後に、図表5-1に示した質問項目（上：職業スキル10項目、下：生活スキル8項目）を同じ調査対象者に実施し、その点差を比較することで訓練前後の変化を検討した。職業スキル10項目は「かなり自信がある（5点）」「やや自信がある（4点）」「どちらでもない（3点）」「あまり自信がない（2点）」「ほとんど自信がない（1点）」の5件法でたずねた¹。また、生活スキル8項目は「かなり得意である（5点）」「やや得意である（4点）」「どちらでもない（3点）」「やや苦手である（2点）」「かなり苦手である（1点）」の5件法でたずねた。

分析の結果、職業スキルおよび生活スキルともに、訓練前・訓練後で、1%水準で統計的に有意な差がみられた。いずれも訓練後の方が値が大きく、自信があるもしくは得意であると評価するようになった。

¹ なお、巻末の調査票ではネガティブ方向が大きなスコアになっているが、統計的な扱いが難しいため分析にあたってポジティブ方向が大きなスコアになるように逆転した。以下、本報告書の図表・本文ではポジティブ方向が大きなスコアになるように逆転した値を示している。

特に、職業スキルでは「ビジネスマナーを理解していること」「作業に必要な道具、機材を選択すること」「機械やパソコンの操作を行うこと」で、訓練前後の変化が大きかった。また、生活スキルでは「自分の能力を正確に把握する」「パソコンでメールのやりとりをする」「自分の人生設計を立てる」で、訓練前後の変化が大きかった。

図表5-1 職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化

職業スキル	訓練前			訓練後			差	sig.
	N	平均値	SD	平均値	SD	差		
書類を書くこと	4499	3.13	0.97	3.45	0.90	0.32	**	
人前で話すこと	4553	3.13	1.02	3.43	0.94	0.31	**	
人を説得したり、交渉したりすること	4515	2.89	1.05	3.17	0.96	0.28	**	
人にサービスをすること	4511	3.65	0.90	3.84	0.81	0.19	**	
特定の業界の知識を用いること	4480	3.03	1.00	3.47	0.85	0.45	**	
ビジネスマナーを理解していること	4509	3.03	0.94	3.56	0.80	0.53	**	
作業に必要な道具、機材を選択すること	4481	2.97	0.93	3.45	0.81	0.48	**	
資材や道具の管理を行うこと	4445	3.13	0.93	3.52	0.82	0.39	**	
機械やパソコンの操作を行うこと	4525	3.04	1.11	3.58	0.93	0.54	**	
体力的にきつい仕事をすること	4563	2.81	1.10	3.05	1.05	0.24	**	

生活スキル	訓練前			訓練後			差	sig.
	N	平均値	SD	平均値	SD	差		
朝、決まった時間に起きる	4547	3.83	1.04	3.99	0.98	0.16	**	
時間を守る	4546	4.15	0.87	4.24	0.82	0.10	**	
友達をつくる	4528	3.59	0.95	3.80	0.90	0.21	**	
自分の主張をはっきり言う	4535	3.34	0.97	3.53	0.92	0.19	**	
人と交渉する	4523	3.08	0.99	3.30	0.93	0.22	**	
自分の能力を正確に把握する	4519	3.23	0.81	3.53	0.78	0.30	**	
パソコンでメールのやりとりをする	4512	3.29	1.16	3.64	1.03	0.35	**	
自分の人生設計を立てる	4522	3.02	0.87	3.30	0.85	0.28	**	

** 1%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。

差のうち値の大きかった上位3位に網かけを付した。

(2) キャリア意識・就職意識の変化

図表5-2に、キャリア意識・就職意識の訓練前後の変化を示した。本調査では、訓練前と訓練後に、図表5-2に示した質問項目（上：キャリア意識 10項目、下：就職意識 6項目）を同じ調査対象者に実施し、その点差を検討することで訓練前後の変化を検討することとした。キャリア意識 10項目は「よくあてはまる（5点）」「ややあてはまる（4点）」「どちらともいえない（3点）」「あまりあてはまらない（2点）」「全くあてはまらない（1点）」の5件法でたずねた。また、就職意識 6項目については、「今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか」の項目のみ「おおむね自信がある（5点）」「ある程度、自信がある（4点）」「どちらとも言えない（3点）」「あまり自信がない（2点）」「全く自信がない（1点）」の5件法で、その他の5項目は「非常に自信がある（4点）」「少しは自信がある（3点）」「あまり自信がない（2点）」「全く自信がない（1点）」の4件法でたずねた。

分析の結果、キャリア意識および就職意識ともに、訓練前・訓練後で、おおむね 1%水準で統計的に有意な差がみられた。おおむねいずれの項目も、訓練後の方が、ポジティブな方向に意識面の変化がみられた。

特に、キャリア意識では「自分の職業生活を主体的に送っている」「これからの職業生活に

ついて、自分なりに見通しをもっている」で訓練前後の変化が大きかった。また、就職意識では「自分の長所・短所を理解する」「就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること」「就職時の面接でうまく対応すること」で、訓練前後の変化が大きかった。

ただし、「自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている」「自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである」の2項目については、5%水準で統計的に有意にネガティブな方向に変化がみられた。解釈が難しいが、訓練を経て、今後の職業生活に対する関心や期待がより現実的なものへと変化したことが推察される。

図表5-2 キャリア意識・就職意識の訓練前後の変化

キャリア意識	訓練前			訓練後		差	sig.
	N	平均値	SD	平均値	SD		
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	4524	4.45	0.69	4.42	0.69	-0.03	*
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	4522	4.16	0.74	4.24	0.69	0.08	**
自分の職業生活を主体的に送っている	4377	3.51	0.89	3.73	0.85	0.22	**
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	4495	3.60	0.85	3.77	0.82	0.17	**
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	4489	2.59	0.96	2.51	0.96	-0.08	**
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	4498	3.72	0.77	3.81	0.73	0.09	**
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	4475	2.47	0.98	2.37	0.97	-0.10	**
希望する職業生活が送れるように、努力している	4455	3.97	0.75	4.07	0.71	0.10	**
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	4492	2.88	1.01	2.77	1.01	-0.10	**
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	4501	3.43	0.79	3.39	0.80	-0.03	*

就職意識	訓練前			訓練後		差	sig.
	N	平均値	SD	平均値	SD		
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	4438	3.36	0.82	3.39	0.83	0.03	*
自分の長所・短所を理解する	4524	2.94	0.58	3.04	0.54	0.10	**
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	4503	2.78	0.65	2.83	0.63	0.05	**
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	4503	3.04	0.69	3.14	0.66	0.10	**
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	4492	2.89	0.68	2.93	0.67	0.04	**
就職時の面接でうまく対応すること	4509	2.52	0.73	2.65	0.69	0.12	**

※ **は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。
差のうち値の大きかった上位2位に網かけを付した。

2. 属性別にみた訓練前後の変化の違い

(1) 性別による違い

訓練前後の変化の制度利用者の属性別による違いを検討した。

図表5-3に、性別による職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルでは、性別によって訓練前後の変化が統計的に有意に異なる箇所があることが示された。特に、「特定の業界の知識を用いること」「ビジネスマナーを理解していること」「作業に必要な道具、機械を選択すること」「資材や道具の管理を行うこと」「機械やパソコンの操作を行うこと」で違いが大きかった。いずれも女性の方が、訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。なお、生活スキルについては、性別による統計的に有意な違いがみられなかった。

また、図表5-4には、性別によるキャリア意識・就職意識の訓練前後の変化の違いを示した。表から、キャリア意識では「職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的

に解決していく」に関して、男性の方が訓練前後の変化量が統計的に有意に大きいことが示された。また、就職活動に対する意識では「自分の長所・短所を理解する」に関して、女性の方が訓練前後の変化量が統計的に有意に大きいことが示された。ただし、どちらも大きな違いではなく、概して言えば、訓練前後の変化は性別によって異ならず、訓練前後の意識変化は男女ともにおおむね同じような形で生じることが示された。

図表5-3 訓練前後の変化の性別による違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	男性 N=1478	女性 N=3071	sig.
書類を書くこと	0.28	0.34	*
人前で話すこと	0.31	0.30	
人を説得したり、交渉したりすること	0.24	0.30	*
人にサービスをすること	0.19	0.19	
特定の業界の知識を用いること	0.36	0.49	**
ビジネスマナーを理解していること	0.43	0.58	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.36	0.54	**
資材や道具の管理を行うこと	0.30	0.43	**
機械やパソコンの操作を行うこと	0.43	0.59	**
体力的にきつい仕事をする	0.22	0.24	

生活スキル	男性 N=1478	女性 N=3071	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.17	0.15	
時間を守る	0.09	0.10	
友達をつくる	0.20	0.22	
自分の主張をはっきり言う	0.18	0.20	
人と交渉する	0.21	0.23	
自分の能力を正確に把握する	0.27	0.31	
パソコンでメールのやりとりをする	0.34	0.35	
自分の人生設計を立てる	0.28	0.28	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で、統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差のうち値の大きい箇所に網かけを付した。

図表5-4 訓練前後の変化の性別による違い(キャリア意識・就職意識)

キャリア意識	男性 N=1478	女性 N=3071	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	0.00	-0.04	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.06	0.10	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.20	0.22	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.17	0.16	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.10	-0.07	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.13	0.07	*
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.15	-0.08	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.09	0.10	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.14	-0.09	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.02	-0.04	

就職意識	男性 N=1478	女性 N=3071	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.06	0.01	
自分の長所・短所を理解する	0.07	0.12	*
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.06	0.05	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.12	0.09	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.06	0.03	
就職時の面接でうまく対応すること	0.10	0.14	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差のうち値の大きかった上位2位に網かけを付した。

(2) 年齢による違い

図表5-5に、年齢による職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「書類を書くこと」「資材や道具の管理を行うこと」および生活スキルの「友達をつくる」の変化量は30代で大きく、10代では少なかった。また、生活スキルの「パソコンでメールのやりとりをする」の訓練前後の変化量は、60代以上で大きく、10代では少なかった。

図表5-5 訓練前後の変化の年齢による違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	10代 N=104	20代 N=1240	30代 N=1355	40代 N=1099	50代 N=603	60代 以上 N=147	sig.
書類を書くこと	0.18	0.27	0.37	0.32	0.34	0.28	*
人前で話すこと	0.28	0.27	0.29	0.35	0.34	0.32	
人を説得したり、交渉したりすること	0.29	0.27	0.31	0.29	0.23	0.25	
人にサービスをすること	0.30	0.16	0.21	0.17	0.25	0.15	
特定の業界の知識を用いること	0.44	0.45	0.44	0.44	0.42	0.50	
ビジネスマナーを理解していること	0.49	0.56	0.52	0.53	0.49	0.47	
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.28	0.50	0.51	0.47	0.46	0.54	
資材や道具の管理を行うこと	0.22	0.35	0.43	0.39	0.37	0.61	*
機械やパソコンの操作を行うこと	0.36	0.53	0.54	0.53	0.54	0.70	
体力的にきつい仕事をする	0.08	0.20	0.25	0.27	0.20	0.30	

生活スキル	10代 N=104	20代 N=1240	30代 N=1355	40代 N=1099	50代 N=603	60代 以上 N=147	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.31	0.19	0.16	0.13	0.15	0.01	
時間を守る	0.20	0.09	0.10	0.10	0.09	0.09	
友達をつくる	0.07	0.18	0.26	0.24	0.15	0.19	*
自分の主張をはっきり言う	0.16	0.19	0.21	0.17	0.18	0.12	
人と交渉する	0.05	0.20	0.25	0.24	0.22	0.12	
自分の能力を正確に把握する	0.22	0.33	0.30	0.28	0.25	0.30	
パソコンでメールのやりとりをする	0.15	0.34	0.33	0.34	0.41	0.50	*
自分の人生設計を立てる	0.31	0.31	0.27	0.24	0.31	0.31	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-6 訓練前後の変化の年齢による違い(キャリア意識・就職意識)

キャリア意識	10代 N=104	20代 N=1240	30代 N=1355	40代 N=1099	50代 N=603	60代 以上 N=147	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.02	-0.02	-0.04	-0.02	-0.04	0.03	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.07	0.13	0.07	0.05	0.06	0.10	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.31	0.26	0.24	0.18	0.14	0.11	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.06	0.13	0.21	0.18	0.15	0.12	
職業生活に関する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.24	-0.09	-0.06	-0.09	-0.05	-0.05	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	-0.02	0.08	0.12	0.09	0.07	0.11	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	0.11	-0.10	-0.10	-0.10	-0.12	-0.19	
希望する職業生活が送れるように、努力している	-0.08	0.10	0.11	0.10	0.11	0.04	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.09	-0.09	-0.12	-0.13	-0.06	-0.06	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.25	-0.03	0.00	-0.02	-0.06	-0.15	*

就職意識	10代 N=104	20代 N=1240	30代 N=1355	40代 N=1099	50代 N=603	60代 以上 N=147	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	-0.15	0.01	0.08	0.05	-0.03	-0.06	*
自分の長所・短所を理解する	-0.02	0.09	0.11	0.11	0.12	0.09	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.10	0.05	0.06	0.04	0.04	0.11	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	-0.07	0.09	0.10	0.10	0.12	0.22	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	-0.07	0.05	0.04	0.05	0.03	0.10	
就職時の面接でうまく対応すること	-0.05	0.09	0.15	0.13	0.13	0.19	*

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

また、図表5-6に、年齢によるキャリア意識・就職意識の訓練前後の変化の違いを示した。表から、キャリア意識では「自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである」に関して、30代では変化がないのに対して10代では訓練後に統計的に有意に値が低くなった。10代では、訓練後、自分が期待する職業生活を実現する見込みが低まったと解釈できる結果となった。関連する結果として「今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか」では、30代ではわずかに高くなったが10代では統計的に有意に低くなった。訓練後、10代では就職活動に対する自信が低まったと解釈できる。その他、「就職時の面接でうまく対応すること」は60代で値が統計的に有意に高まったのに対して、10代では統計的に有意に低まった。概して、10代では、将来の職業生活や就職活動について自信がなくなる場合があることが示された。

(3) 配偶者の有無・子供の有無による違い

図表5-7に、配偶者の有無・子供の有無による職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「人を説得したり、交渉したりすること」「人にサービスをすること」「ビジネスマナーを理解していること」の訓練前後の変化量は「配偶者あり・子供あり」の者で統計的に有意に大きかった。同様に、職業スキルの「特定の業界の知識を用いること」「機械やパソコンの操作を行うこと」の訓練前後の変化量は「配偶者なし・子供あり」の者で統計的に有意に大きかった。

また、生活スキルの「朝、決まった時間に起きる」の変化量は「配偶者なし・子供なし」の者で大きかった。同様に、「パソコンでメールのやりとりをする」の変化量は「配偶者なし・子供あり」の者で、統計的に有意に大きかった。

図表5-7 訓練前後の変化の配偶者の有無×子供の有無による違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	配偶者あり 子供あり N=908	配偶者あり 子供なし N=371	配偶者なし 子供あり N=627	配偶者なし 子供なし N=2299	sig.
書類を書くこと	0.34	0.34	0.32	0.31	
人前で話すこと	0.34	0.38	0.31	0.29	
人を説得したり、交渉したりすること	0.36	0.27	0.26	0.26	*
人にサービスをすること	0.24	0.18	0.12	0.19	*
特定の業界の知識を用いること	0.47	0.49	0.53	0.41	*
ビジネスマナーを理解していること	0.60	0.47	0.57	0.51	*
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.48	0.51	0.54	0.48	
資材や道具の管理を行うこと	0.39	0.47	0.43	0.37	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.58	0.56	0.62	0.49	*
体力的にきつい仕事をする	0.24	0.27	0.21	0.25	

生活スキル	配偶者あり 子供あり N=908	配偶者あり 子供なし N=371	配偶者なし 子供あり N=627	配偶者なし 子供なし N=2299	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.07	0.14	0.15	0.19	**
時間を守る	0.10	0.09	0.10	0.09	
友達をつくる	0.24	0.22	0.23	0.19	
自分の主張をはっきり言う	0.18	0.16	0.20	0.19	
人と交渉する	0.24	0.24	0.20	0.20	
自分の能力を正確に把握する	0.28	0.26	0.31	0.30	
パソコンでメールのやりとりをする	0.33	0.38	0.43	0.31	*
自分の人生設計を立てる	0.29	0.19	0.26	0.29	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-8に、配偶者の有無・子供の有無によるキャリア意識・就職意識の訓練前後の変化量の違いを示した。表から、キャリア意識の「これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない」でのみ、統計的に有意な違いがみられた。「配偶者なし・子供あり」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。その他では、統計的に有意な違いがみられなかった。

図表5-8 訓練前後の変化の配偶者の有無×子供の有無による違い(キャリア意識・就職意識)

キャリア意識	配偶者あり 子供あり N=908	配偶者あり 子供なし N=371	配偶者なし 子供あり N=627	配偶者なし 子供なし N=2299	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.03	0.01	-0.08	-0.02	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.11	0.09	0.05	0.08	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.24	0.15	0.20	0.22	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.16	0.16	0.16	0.17	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.10	-0.12	0.00	-0.09	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.11	0.06	0.04	0.10	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.08	-0.17	-0.04	-0.14	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.12	0.09	0.07	0.10	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.02	-0.04	-0.16	-0.13	*
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.04	-0.07	-0.03	-0.02	

就職意識	配偶者あり 子供あり N=908	配偶者あり 子供なし N=371	配偶者なし 子供あり N=627	配偶者なし 子供なし N=2299	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.05	0.04	-0.05	0.05	
自分の長所・短所を理解する	0.13	0.11	0.15	0.08	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.04	0.04	0.01	0.06	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.10	0.13	0.08	0.10	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.02	0.12	0.00	0.05	
就職時の面接でうまく対応すること	0.16	0.10	0.10	0.13	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。

(4) 最終学歴による違い

図表5-9に、最終学歴による職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「書類を書くこと」は「専門学校他卒」の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に職業スキルの「特定の業界の知識を用いること」では「高校卒」の変化量が、「ビジネスマナーを理解していること」「機械やパソコンの操作を行うこと」では「中学校その他卒」の変化量が、統計的に有意に大きかった。

また、生活スキルの「朝、決まった時間に起きる」は「高校卒」の訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に、「パソコンでメールのやりとりをする」は「中学校卒・その他卒」の変化量が統計的に有意に大きかった。

図表5-10に、最終学歴によるキャリア意識・就職意識の訓練前後の変化の違いを示した。表から、キャリア意識の「職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている」では「高校卒」の訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に「これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない」では「短大・高専卒」の訓練前後の変化量が、「希望する職業生活が送れるように、努力している」では「大学・大学院卒」の訓練前後の変化量が、統計的に有意に大きかった。

また、就職意識の「今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか」では「大学・大学院卒」の訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に「就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること」では「高校卒」の変化量が統計的に有意に大きかった。その他では、統計的に有意な違いがみられなかった。

図表5-9 訓練前後の変化の最終学歴による違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	大学・ 大学院卒 N=896	短大・ 高専卒 N=576	専門 学校他卒 N=672	高校卒 N=1998	中学校 その他卒 N=407	sig.
書類を書くこと	0.24	0.33	0.40	0.33	0.32	**
人前で話すこと	0.28	0.32	0.30	0.32	0.28	
人を説得したり、交渉したりすること	0.26	0.32	0.23	0.29	0.29	
人にサービスをすること	0.19	0.18	0.15	0.20	0.19	
特定の業界の知識を用いること	0.32	0.39	0.44	0.51	0.47	**
ビジネスマナーを理解していること	0.39	0.50	0.53	0.57	0.65	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.48	0.48	0.48	0.48	0.50	
資材や道具の管理を行うこと	0.37	0.40	0.42	0.39	0.35	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.41	0.56	0.53	0.56	0.70	**
体力的にきつい仕事をする	0.21	0.22	0.24	0.25	0.22	

生活スキル	大学・ 大学院卒 N=896	短大・ 高専卒 N=576	専門 学校他卒 N=672	高校卒 N=1998	中学校 その他卒 N=407	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.12	0.12	0.10	0.19	0.18	*
時間を守る	0.11	0.05	0.07	0.11	0.06	
友達をつくる	0.19	0.18	0.22	0.23	0.24	
自分の主張をはっきり言う	0.22	0.20	0.18	0.17	0.21	
人と交渉する	0.24	0.22	0.23	0.22	0.16	
自分の能力を正確に把握する	0.27	0.30	0.31	0.30	0.32	
パソコンでメールのやりとりをする	0.26	0.33	0.34	0.37	0.44	*
自分の人生設計を立てる	0.27	0.29	0.28	0.30	0.24	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-10 訓練前後の変化の最終学歴による違い(キャリア意識・就職意識)

キャリア意識	大学・ 大学院卒 N=896	短大・ 高専卒 N=576	専門 学校他卒 N=672	高校卒 N=1998	中学校 その他卒 N=407	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	0.00	-0.04	-0.03	-0.01	-0.12	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.09	0.07	0.02	0.12	0.02	*
自分の職業生活を主体的に送っている	0.19	0.21	0.19	0.24	0.20	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.19	0.18	0.16	0.16	0.13	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.07	-0.11	-0.01	-0.10	-0.09	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.10	0.10	0.06	0.10	0.07	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.17	-0.15	-0.03	-0.09	-0.03	*
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.15	0.12	0.08	0.10	-0.01	*
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.08	-0.14	-0.08	-0.12	-0.08	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.01	-0.01	0.01	-0.04	-0.12	

就職意識	大学・ 大学院卒 N=896	短大・ 高専卒 N=576	専門 学校他卒 N=672	高校卒 N=1998	中学校 その他卒 N=407	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.07	0.05	0.03	0.04	-0.12	**
自分の長所・短所を理解する	0.13	0.14	0.07	0.09	0.09	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.08	0.06	0.06	0.05	-0.03	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.06	0.05	0.12	0.13	0.10	**
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞ら込むこと	0.07	0.04	0.04	0.04	0.00	
就職時の面接でうまく対応すること	0.11	0.16	0.08	0.14	0.09	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

3. 収入および公的給付との関連

(1) 生計の担い手別の違い

図表5-11に、生計の担い手別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「人を説得したり、交渉したりすること」「特定の業界の知識を用いること」では「生計の主な担い手と同居」の訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に職業スキルの「人前で話すこと」では「生計の主な担い手と別居」の変化量が、「機械やパソコンの操作を行うこと」では「その他」の変化量が、統計的に有意に大きかった。

また、生活スキルの「自分の能力を正確に把握する」では「生計の主な担い手と別居」の変化量が大きかった。同様に、「人と交渉する」では「生計の主な担い手と同居」の変化量が、「友達をつくる」では「その他」の変化量が統計的に有意に大きかった。

図表5-11 訓練前後の変化の生計の担い手別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	生計の主な担い手 N=1620	生計の主な担い手と同居 N=2397	生計の主な担い手と別居 N=111	その他 N=245	sig.
書類を書くこと	0.28	0.34	0.33	0.31	
人前で話すこと	0.26	0.33	0.41	0.25	*
人を説得したり、交渉したりすること	0.20	0.33	0.28	0.23	**
人にサービスをすること	0.16	0.19	0.25	0.21	
特定の業界の知識を用いること	0.37	0.49	0.41	0.48	**
ビジネスマナーを理解していること	0.42	0.57	0.71	0.66	
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.46	0.51	0.54	0.48	
資材や道具の管理を行うこと	0.35	0.40	0.50	0.46	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.48	0.56	0.56	0.65	*
体力的にきつい仕事をする	0.21	0.24	0.38	0.23	

生活スキル	生計の主な担い手 N=1620	生計の主な担い手と同居 N=2397	生計の主な担い手と別居 N=111	その他 N=245	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.13	0.16	0.06	0.27	
時間を守る	0.09	0.10	0.04	0.09	
友達をつくる	0.16	0.23	0.21	0.27	*
自分の主張をはっきり言う	0.16	0.20	0.16	0.22	
人と交渉する	0.17	0.25	0.18	0.16	*
自分の能力を正確に把握する	0.25	0.32	0.38	0.35	*
パソコンでメールのやりとりをする	0.34	0.35	0.26	0.35	
自分の人生設計を立てる	0.25	0.30	0.31	0.31	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。なお、「生計の主な担い手と別居」は親からの仕送りで生計を立てている等

図表5-12に、生計の担い手別のキャリア意識・就職意識の変化の違いを示した。表から、キャリア意識の「自分の職業生活を主体的に送っている」では「生計の担い手と別居」の変化量が統計的に有意に大きかった。同様にキャリア意識の「職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている」では「その他」の変化量が統計的に有意に大きかった。

また、就職意識の「今後の就職活動について、どの程度の信がありますか」「自分の長所・短所を理解する」では「生計の主な担い手と同居」の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に、「今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか」でも「生計の主な担い手と別居」の変化量が、統計的に有意に大きかった。

図表5-12 訓練前後の変化の生計の担い手別の違い(キャリア意識・就職意識)

キャリア意識	生計の主な担い手 N=1620	生計の主な担い手と同居 N=2397	生計の主な担い手と別居 N=111	その他 N=245	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.06	-0.01	-0.04	0.02	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.03	0.11	0.11	0.14	**
自分の職業生活を主体的に送っている	0.16	0.25	0.41	0.20	**
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.15	0.17	0.34	0.07	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.05	-0.11	0.05	-0.02	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.08	0.10	0.14	0.11	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.07	-0.13	-0.08	0.00	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.07	0.12	0.12	0.10	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.10	-0.11	-0.24	-0.08	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.03	-0.02	0.08	-0.13	

就職意識	生計の主な担い手 N=1620	生計の主な担い手と同居 N=2397	生計の主な担い手と別居 N=111	その他 N=245	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	-0.01	0.08	0.08	-0.10	**
自分の長所・短所を理解する	0.06	0.13	0.10	0.12	*
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.02	0.07	0.07	0.06	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.09	0.10	-0.02	0.13	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.02	0.05	0.05	0.02	
就職時の面接でうまく対応すること	0.10	0.14	0.12	0.08	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。なお、「生計の主な担い手と別居」は親からの仕送りで生計を立てている等

(2) 本人の収入別の違い

図表5-13に、本人の収入別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「ビジネスマナーを理解していることは、収入が「なし」「0~100万円」の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に、職業スキルの「特定の業界の知識を用いること」は「0~100万円」で、「機械やパソコンの操作を行うこと」は収入「なし」で、「人を説得したり、交渉したりすること」は「100~200万円」で、統計的に有意に変化量が大きかった。

また、生活スキルの「朝、決まった時間に起きる」「友達をつくる」「自分の主張をはっきり言う」「パソコンでメールのやりとりをする」では収入が「なし」の変化量が統計的に有意に大きかった。同様に、「自分の主張をはっきり言う」では「100~200万円」の変化量が統計的に有意に大きかった。

なお図表5-14に示したとおり、キャリア意識・就職意識では、本人の収入による違いがみられなかった。

図表5-13 訓練前後の変化の本人の収入別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	なし N=1127	0~ 100万円 N=1807	100~ 200万円 N=871	200万円 以上 N=582	sig.
書類を書くこと	0.30	0.35	0.33	0.26	
人前で話すこと	0.29	0.31	0.30	0.29	
人を説得したり、交渉したりすること	0.29	0.30	0.32	0.14	**
人にサービスをすること	0.21	0.20	0.17	0.13	
特定の業界の知識を用いること	0.42	0.50	0.44	0.31	**
ビジネスマナーを理解していること	0.57	0.57	0.52	0.34	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.48	0.50	0.45	0.49	
資材や道具の管理を行うこと	0.37	0.41	0.34	0.38	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.57	0.56	0.51	0.43	*
体力的にきつい仕事をする	0.27	0.22	0.21	0.22	

生活スキル	なし N=1127	0~ 100万円 N=1807	100~ 200万円 N=871	200万円 以上 N=582	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.22	0.15	0.10	0.11	**
時間を守る	0.13	0.10	0.07	0.05	
友達をつくる	0.28	0.19	0.18	0.19	*
自分の主張をはっきり言う	0.23	0.18	0.23	0.09	**
人と交渉する	0.24	0.22	0.25	0.15	
自分の能力を正確に把握する	0.29	0.31	0.32	0.24	
パソコンでメールのやりとりをする	0.41	0.34	0.33	0.27	*
自分の人生設計を立てる	0.28	0.30	0.31	0.23	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-14 訓練前後の変化の本人の収入別の違い(キャリア意識・就職活動に対する意識)

キャリア意識	なし N=1127	0~ 100万円 N=1807	100~ 200万円 N=871	200万円 以上 N=582	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.02	-0.03	-0.03	-0.01	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.12	0.09	0.05	0.05	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.27	0.22	0.19	0.16	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.15	0.18	0.16	0.17	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.07	-0.10	-0.09	0.01	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.09	0.09	0.11	0.08	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.17	-0.07	-0.12	-0.04	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.10	0.11	0.10	0.09	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.13	-0.10	-0.09	-0.05	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.04	-0.04	0.01	-0.04	

就職意識	なし N=1127	0~ 100万円 N=1807	100~ 200万円 N=871	200万円 以上 N=582	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.06	0.03	0.02	0.01	
自分の長所・短所を理解する	0.09	0.11	0.13	0.07	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.04	0.07	0.03	0.04	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.11	0.09	0.09	0.17	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.07	0.02	0.02	0.07	
就職時の面接でうまく対応すること	0.15	0.11	0.14	0.10	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。本表では統計的に有意な差はみられなかった。

(3) 生活保護の受給の有無別の違い

図表5-15に、生活保護の受給の有無別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「ビジネスマナーを理解していること」については、生活保護受給者の方が、統計的に有意に変化量が大きかった。

生活スキルでは、生活保護の受給の有無による違いはみられなかった。

図表5-15 訓練前後の変化の生活保護の受給の有無別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	非受給 N=4060	受給 N=291	sig.
書類を書くこと	0.32	0.29	
人前で話すこと	0.31	0.25	
人を説得したり、交渉したりすること	0.28	0.22	
人にサービスをすること	0.19	0.22	
特定の業界の知識を用いること	0.44	0.52	
ビジネスマナーを理解していること	0.52	0.68	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.49	0.47	
資材や道具の管理を行うこと	0.39	0.35	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.53	0.55	
体力的にきつい仕事をすること	0.23	0.33	

生活スキル	非受給 N=4060	受給 N=291	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.15	0.25	
時間を守る	0.10	0.16	
友達をつくる	0.22	0.26	
自分の主張をはっきり言う	0.19	0.21	
人と交渉する	0.22	0.20	
自分の能力を正確に把握する	0.30	0.30	
パソコンでメールのやりとりをする	0.35	0.39	
自分の人生設計を立てる	0.28	0.27	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、値が大きい方に網かけを付した。

図表5-16に、生活保護の受給の有無別のキャリア意識・就職意識の変化の違いを示した。表から、キャリア意識の「希望する職業生活が送れるように努力している」では、生活保護の非受給者の方が統計的に有意に変化量が大きかった。一方、「自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている」では生活保護の受給者の変化量が統計的に有意に大きかった。なお、就職意識では、生活保護の受給の有無によって、統計的に有意な違いがみられなかった。

図表5-16 訓練前後の変化の生活保護の受給の有無別の違い(キャリア意識・就職意識)

キャリア意識	非受給 N=4060	受給 N=291	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.03	0.07	*
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.09	0.09	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.22	0.26	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.17	0.19	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.08	-0.06	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.09	0.13	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.10	-0.06	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.11	-0.06	**
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.10	-0.09	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.03	-0.07	

就職意識	非受給 N=4060	受給 N=291	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.03	-0.03	
自分の長所・短所を理解する	0.10	0.07	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.05	0.06	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.10	0.10	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.04	0.01	
就職時の面接でうまく対応すること	0.13	0.10	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、値が大きい方に網かけを付した。

4. 就労経験との関連

(1) 直近の働き方別

図表5-17に、正規就労経験別の職業スキル・生活スキルの変化の違いを示した。表から、概して「働いた経験がない」と回答した者で統計的に有意に変化量が大きかった。具体的には、

職業スキルの「人を説得したり、交渉したりすること」「人にサービスをすること」「ビジネスマナーを理解していること」「機械やパソコンの操作を行うこと」などで特に変化量が大きかった。

また、「働いた経験がない」と回答した者は、生活スキルの「朝、決まった時間に起きる」「自分の主張をはっきり言う」でも統計的に有意に変化量が大きかった。なお、「パート・アルバイト」では「特定の業界の知識を用いること」で特に変化量が大きかった。

図表5-18に、直近の働き方別のキャリア意識・就職意識の変化の違いを示した。表から、直近の働き方が「パート・アルバイト」の者は、キャリア意識の「職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている」で統計的に有意に変化が大きいことが示される。ただし、それ以外では、キャリア意識・生活意識に統計的に有意な結果はみられなかった。

図表5-17 直近の働き方別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	正社員・ 正職員 N=1271	契約社員 N=482	派遣社員 N=415	パート・ アルバイト N=2106	自営業・ 家族 従業員 N=123	働いた 経験が ない N=59	その他 N=74	sig.
書類を書くこと	0.28	0.33	0.37	0.33	0.35	0.43	0.39	
人前で話すこと	0.29	0.31	0.34	0.31	0.31	0.36	0.22	
人を説得したり、交渉したりすること	0.23	0.23	0.30	0.32	0.21	0.48	0.23*	
人にサービスをすること	0.16	0.15	0.25	0.19	0.17	0.51	0.28*	
特定の業界の知識を用いること	0.39	0.35	0.39	0.52	0.42	0.49	0.19**	
ビジネスマナーを理解していること	0.44	0.43	0.55	0.60	0.53	0.71	0.41**	
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.45	0.48	0.40	0.52	0.46	0.62	0.37	
資材や道具の管理を行うこと	0.35	0.37	0.43	0.41	0.44	0.53	0.24	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.48	0.54	0.44	0.60	0.49	0.65	0.53*	
体力的にきつい仕事をする	0.21	0.29	0.29	0.22	0.17	0.42	0.25	

生活スキル	正社員・ 正職員 N=1271	契約社員 N=482	派遣社員 N=415	パート・ アルバイト N=2106	自営業・ 家族 従業員 N=123	働いた 経験が ない N=59	その他 N=74	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.09	0.13	0.12	0.19	0.27	0.37	0.15**	
時間を守る	0.07	0.07	0.10	0.10	0.13	0.31	0.18	
友達をつくる	0.19	0.14	0.25	0.23	0.18	0.19	0.34	
自分の主張をはっきり言う	0.14	0.19	0.21	0.21	0.20	0.39	0.32*	
人と交渉する	0.20	0.15	0.29	0.22	0.29	0.27	0.29	
自分の能力を正確に把握する	0.27	0.26	0.31	0.31	0.32	0.39	0.25	
パソコンでメールのやりとりをする	0.34	0.33	0.26	0.36	0.51	0.33	0.28	
自分の人生設計を立てる	0.25	0.29	0.25	0.31	0.40	0.25	0.25	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-18 直近の働き方別の違い(キャリア意識・就職意識)

キャリア意識	正社員・ 正職員 N=1271	契約社 員 N=482	派遣社 員 N=415	パート・ アルバイ ト N=2106	自営業・ 家族 従業員 N=123	働いた 経験が ない N=59	その他 N=74	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.05	-0.05	-0.03	-0.01	0.02	-0.04	-0.07	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.04	0.02	0.10	0.13	0.07	-0.04	0.09*	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.17	0.18	0.23	0.26	0.30	0.22	0.12	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.17	0.18	0.12	0.17	0.26	-0.13	0.25	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.08	-0.03	-0.02	-0.08	-0.29	-0.09	-0.30	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.05	0.10	0.10	0.10	0.21	0.18	0.12	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.11	-0.06	-0.12	-0.09	-0.40	-0.11	-0.06	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.13	0.07	0.12	0.09	0.08	0.13	0.10	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.09	-0.05	-0.14	-0.11	-0.32	-0.02	-0.13	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.01	-0.07	-0.05	-0.03	-0.14	-0.13	0.06	

就職意識	正社員・ 正職員 N=1271	契約社 員 N=482	派遣社 員 N=415	パート・ アルバイ ト N=2106	自営業・ 家族 従業員 N=123	働いた 経験が ない N=59	その他 N=74	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.06	0.03	-0.05	0.03	0.06	-0.11	0.09	
自分の長所・短所を理解する	0.10	0.11	0.08	0.11	0.04	0.14	0.16	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.02	0.05	0.07	0.05	0.20	0.14	0.12	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.11	0.11	0.07	0.10	0.13	0.14	0.16	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.05	0.03	0.04	0.04	0.10	0.14	0.11	
就職時の面接でうまく対応すること	0.11	0.13	0.13	0.14	0.17	-0.05	0.13	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

(2) 正規就労経験別の違い

図表5-19に、正規就労経験別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「特定の業界の知識を用いること」「ビジネスマナーを理解していること」では正規就労経験が「1年未満」の変化量が統計的に有意に大きかった。

また、生活スキルの「朝、決まった時間に起きる」「友達をつくる」「自分の主張をはっきり言う」「自分の人生設計を立てる」では正規就労経験「なし」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。

図表5-19 訓練前後の変化の正規就労経験別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	なし N=909	1年未満 N=380	1～3年 未満 N=639	3～5年 未満 N=662	5年以上 N=1709	sig.
書類を書くこと	0.33	0.37	0.34	0.33	0.30	
人前で話すこと	0.31	0.34	0.25	0.29	0.33	
人を説得したり、交渉したりすること	0.31	0.32	0.30	0.23	0.26	
人にサービスをすること	0.19	0.18	0.22	0.18	0.19	
特定の業界の知識を用いること	0.42	0.59	0.40	0.48	0.40	**
ビジネスマナーを理解していること	0.60	0.63	0.57	0.53	0.44	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.50	0.50	0.51	0.50	0.45	
資材や道具の管理を行うこと	0.39	0.41	0.43	0.41	0.37	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.61	0.49	0.52	0.52	0.52	
体力的にきつい仕事をする	0.24	0.22	0.27	0.22	0.24	

生活スキル	なし N=909	1年未満 N=380	1～3年 未満 N=639	3～5年 未満 N=662	5年以上 N=1709	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.23	0.15	0.13	0.08	0.13	**
時間を守る	0.14	0.10	0.10	0.05		
友達をつくる	0.25	0.10	0.23	0.20	0.22	*
自分の主張をはっきり言う	0.29	0.12	0.15	0.14	0.20	**
人と交渉する	0.21	0.21	0.21	0.21	0.23	
自分の能力を正確に把握する	0.33	0.34	0.24	0.32	0.27	
パソコンでメールのやりとりをする	0.37	0.36	0.34	0.34	0.33	
自分の人生設計を立てる	0.33	0.32	0.21	0.26	0.28	*

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-20に、正規就労経験別のキャリア意識・就職意識の変化の違いを示した。表から、キャリア意識の「職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている」では、正規就労経験「なし」の変化量が統計的に有意に大きかった。

また、キャリア意識の「将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てる」とも、正規就労経験「なし」の変化量が統計的に有意に大きかった。

図表5-20 訓練前後の変化の正規就労経験期間別の違い
(キャリア意識・就職活動に対する意識)

キャリア意識	なし N=909	1年未満 N=380	1~3年 未満 N=639	3~5年 未満 N=662	5年以上 N=1709	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.02	0.01	-0.05	-0.04	-0.02	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.17	0.09	0.04	0.05	0.06	**
自分の職業生活を主体的に送っている	0.30	0.27	0.19	0.19	0.19	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.15	0.23	0.12	0.20	0.17	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.08	-0.12	-0.08	0.01	-0.09	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.11	0.12	0.10	0.07	0.09	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.11	-0.07	-0.09	-0.07	-0.12	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.11	0.09	0.14	0.11	0.10	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.12	-0.12	-0.11	-0.06	-0.10	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.06	0.02	-0.05	-0.01	-0.04	

就職意識	なし N=909	1年未満 N=380	1~3年 未満 N=639	3~5年 未満 N=662	5年以上 N=1709	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.02	0.01	0.08	0.04	0.02	
自分の長所・短所を理解する	0.11	0.11	0.09	0.10	0.10	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.09	0.05	0.02	0.00	0.05	*
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.12	0.00	0.08	0.09	0.12	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞込むこと	0.06	-0.06	0.04	0.05	0.05	
就職時の面接でうまく対応すること	0.11	0.12	0.10	0.11	0.14	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

(3) 非正規就労経験別の違い

図表5-21に、非正規就労経験別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルの「書類を書くこと」では非正規就労経験「5年以上」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。また、生活スキルの「パソコンでメールのやりとりをする」でも、非正規就労経験「5年以上」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。

図表5-21 訓練前後の変化の非正規就労経験期間別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	なし N=385	1年未満 N=542	1~3年 未満 N=723	3~5年 未満 N=666	5年以上 N=1385	sig.
書類を書くこと	0.21	0.29	0.27	0.33	0.39	**
人前で話すこと	0.30	0.29	0.29	0.36	0.33	
人を説得したり、交渉したりすること	0.23	0.27	0.33	0.29	0.30	
人にサービスをすること	0.20	0.19	0.20	0.15	0.19	
特定の業界の知識を用いること	0.40	0.40	0.44	0.45	0.48	
ビジネスマナーを理解していること	0.53	0.50	0.51	0.52	0.58	
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.43	0.46	0.49	0.51	0.53	
資材や道具の管理を行うこと	0.36	0.36	0.40	0.40	0.43	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.54	0.45	0.54	0.54	0.58	
体力的にきつい仕事をすること	0.22	0.23	0.21	0.25	0.27	

生活スキル	なし N=385	1年未満 N=542	1~3年 未満 N=723	3~5年 未満 N=666	5年以上 N=1385	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.26	0.15	0.18	0.14	0.17	
時間を守る	0.16	0.10	0.11	0.08	0.10	
友達をつくる	0.21	0.18	0.23	0.20	0.23	
自分の主張をはっきり言う	0.21	0.16	0.20	0.24	0.18	
人と交渉する	0.22	0.17	0.22	0.22	0.23	
自分の能力を正確に把握する	0.31	0.26	0.33	0.26	0.32	
パソコンでメールのやりとりをする	0.30	0.23	0.36	0.30	0.41	**
自分の人生設計を立てる	0.24	0.30	0.31	0.31	0.28	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

なお、図表5-22に示したとおり、キャリア意識・就職意識については、非正規就労経験によって統計的に有意な違いは「3～5年未満」で「現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと」でのみ示された。

**図表5-22 訓練前後の変化の非正規就労経験期間別の違い
(キャリア意識・就職活動に対する意識)**

キャリア意識	なし N=385	1年未満 N=542	1～3年 未満 N=723	3～5年 未満 N=666	5年以上 N=1385	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	0.01	0.01	-0.02	-0.05	-0.04	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.10	0.09	0.09	0.07	0.11	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.22	0.23	0.27	0.20	0.22	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.11	0.16	0.20	0.19	0.17	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.16	-0.01	-0.13	-0.11	-0.06	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.03	0.06	0.14	0.09	0.12	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.02	-0.05	-0.13	-0.13	-0.10	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.09	0.01	0.09	0.13	0.11	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.03	-0.08	-0.19	-0.13	-0.08	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.06	-0.05	-0.04	-0.01	-0.02	

就職意識	なし N=385	1年未満 N=542	1～3年 未満 N=723	3～5年 未満 N=666	5年以上 N=1385	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.02	0.01	0.03	0.04	0.04	
自分の長所・短所を理解する	0.13	0.11	0.13	0.09	0.10	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.08	0.06	0.02	0.02	0.06	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.11	0.08	0.08	0.13	0.10	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.06	0.04	0.02	0.12	0.00	*
就職時の面接でうまく対応すること	0.11	0.11	0.12	0.15	0.16	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値－訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

5. 求職期間および雇用保険受給状況等との関連

(1) 求職活動期間別の違い

図表5-23に、求職活動期間別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、生活スキルの「自分の能力を正確に把握する」は求職活動期間「3か月未満」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。また、「朝、決まった時間に起きる」は求職活動期間「1年以上」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。なお、職業スキルでは、統計的に有意に変化量が大きい箇所はなかった。また、図表5-24に示したとおり、求職活動期間別のキャリア意識・就職活動に対する意識では、統計的に有意に変化量が大きい箇所はみられなかった。

図表5-23 訓練前後の変化の求職活動期間別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	1か月未満 N=634	3か月未満 N=1135	6か月未満 N=988	1年未満 N=746	1年以上 N=887	sig.
書類を書くこと	0.31	0.34	0.37	0.29	0.29	
人前で話すこと	0.33	0.29	0.33	0.26	0.31	
人を説得したり、交渉したりすること	0.29	0.28	0.30	0.22	0.28	
人にサービスをすること	0.16	0.18	0.21	0.19	0.18	
特定の業界の知識を用いること	0.51	0.44	0.44	0.43	0.41	
ビジネスマナーを理解していること	0.55	0.57	0.50	0.50	0.51	
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.50	0.49	0.50	0.49	0.44	
資材や道具の管理を行うこと	0.40	0.38	0.41	0.37	0.37	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.59	0.49	0.54	0.51	0.55	
体力的にきつい仕事をする事	0.22	0.21	0.28	0.26	0.21	

生活スキル	1か月未満 N=634	3か月未満 N=1135	6か月未満 N=988	1年未満 N=746	1年以上 N=887	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.11	0.11	0.17	0.16	0.22	*
時間を守る	0.10	0.07	0.10	0.09	0.12	
友達をつくる	0.23	0.19	0.19	0.20	0.26	
自分の主張をはっきり言う	0.22	0.18	0.19	0.14	0.20	
人と交渉する	0.25	0.20	0.23	0.18	0.22	
自分の能力を正確に把握する	0.23	0.35	0.30	0.31	0.26	*
パソコンでメールのやりとりをする	0.36	0.32	0.33	0.35	0.35	
自分の人生設計を立てる	0.28	0.28	0.30	0.26	0.28	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-24 訓練前後の変化の求職活動期間別の違い(キャリア意識・就職活動に対する意識)

キャリア意識	1か月未満 N=634	3か月未満 N=1135	6か月未満 N=988	1年未満 N=746	1年以上 N=887	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.08	-0.02	0.00	-0.04	-0.02	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.06	0.08	0.11	0.07	0.07	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.22	0.22	0.24	0.14	0.25	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.17	0.15	0.19	0.16	0.17	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.16	-0.07	-0.05	-0.07	-0.04	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.06	0.09	0.10	0.11	0.09	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.09	-0.09	-0.08	-0.09	-0.14	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.10	0.09	0.10	0.09	0.13	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.14	-0.10	-0.08	-0.02	-0.16	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.04	-0.04	-0.03	-0.03	0.00	

就職意識	1か月未満 N=634	3か月未満 N=1135	6か月未満 N=988	1年未満 N=746	1年以上 N=887	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	-0.03	0.03	0.04	0.04	0.07	
自分の長所・短所を理解する	0.13	0.11	0.09	0.09	0.10	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.09	0.02	0.08	0.04	0.04	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.07	0.08	0.10	0.17	0.10	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.04	0.01	0.09	0.02	0.04	
就職時の面接でうまく対応すること	0.11	0.11	0.17	0.11	0.13	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。本表では統計的に有意な差はみられなかった。

(2) 雇用保険受給状況

図表5-25に、雇用保険受給状況別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキル・生活スキルともに、概して雇用保険に「加入していなかったため、受給していない」者で訓練前と訓練後の変化量が統計的に有意に多かったことが示

される。特に、職業スキルの「機械やパソコンの操作を行うこと」「ビジネスマナーを理解していること」「特定の業界の知識を用いること」では変化が大きかった。

図表5-25 訓練前後の変化の雇用保険受給状況別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	加入していなかったため、受給していない N=1561	加入したが被保険者期間が足りず、受給していない N=540	受給している(待期中・給付制限中を含む) N=1223	受給が終了している N=993	sig.
書類を書くこと	0.32	0.35	0.32	0.33	
人前で話すこと	0.30	0.37	0.31	0.28	
人を説得したり、交渉したりすること	0.32	0.25	0.26	0.23	*
人にサービスをすること	0.22	0.19	0.17	0.17	
特定の業界の知識を用いること	0.50	0.43	0.42	0.39	*
ビジネスマナーを理解していること	0.59	0.51	0.50	0.43	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.51	0.47	0.52	0.41	*
資材や道具の管理を行うこと	0.39	0.37	0.44	0.35	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.60	0.54	0.49	0.48	*
体力的にきつい仕事をする	0.23	0.19	0.27	0.22	

生活スキル	加入していなかったため、受給していない N=1561	加入したが被保険者期間が足りず、受給していない N=540	受給している(待期中・給付制限中を含む) N=1223	受給が終了している N=993	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.20	0.11	0.09	0.18	**
時間を守る	0.13	0.09	0.06	0.11	
友達をつくる	0.26	0.16	0.18	0.22	*
自分の主張をはっきり言う	0.23	0.19	0.17	0.16	
人と交渉する	0.22	0.23	0.22	0.19	
自分の能力を正確に把握する	0.31	0.31	0.27	0.29	
パソコンでメールのやりとりをする	0.40	0.30	0.30	0.31	*
自分の人生設計を立てる	0.35	0.25	0.26	0.22	**

※数値は訓練前後の差(訓練後の値－訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

なお、図表5-26に示したとおり、キャリア意識の「自分の職業生活を主体的に送っている」でも「加入していなかったため、受給していない」が、統計的に有意に変化量が大きかった。ただし、就職意識では統計的に有意な箇所はみられなかった。

図表5-26 訓練前後の変化の雇用保険受給状況別の違い
(キャリア意識・就職活動に対する意識)

キャリア意識	加入して いなかった ため、 受給して いない N=1561	加入した が被保険 者期間が 足りず、 受給して いない N=540	受給して いる(待期 中・給付 制限中を 含む) N=1223	受給が 終了して いる N=993	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.01	-0.01	-0.07	-0.01	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.11	0.06	0.06	0.07	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.26	0.23	0.15	0.23*	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.16	0.19	0.16	0.19	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.12	-0.07	-0.06	-0.03	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.09	0.14	0.07	0.09	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.09	-0.15	-0.08	-0.11	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.08	0.15	0.10	0.11	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.10	-0.21	-0.08	-0.07	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.05	-0.01	-0.04	-0.02	

就職活動に対する意識	加入して いなかった ため、 受給して いない N=1561	加入した が被保険 者期間が 足りず、 受給して いない N=540	受給して いる(待期 中・給付 制限中を 含む) N=1223	受給が 終了して いる N=993	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.01	0.10	0.03	0.03	
自分の長所・短所を理解する	0.10	0.10	0.13	0.08	
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.03	0.08	0.05	0.05	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.10	0.06	0.12	0.10	
現在考えているいくつかの職業の中から、一つの職業に絞り込むこと	0.04	0.04	0.05	0.03	
就職時の面接でうまく対応すること	0.10	0.18	0.15	0.11	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

6. 訓練期間および給付金の有無との関連

(1) 職業訓練期間別の違い

図表5-27に、求職活動期間別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、職業スキルについては、概して訓練期間が短い「3~4か月未満」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。なかでも「機械やパソコンの操作を行うこと」「ビジネスマナーを理解していること」「作業に必要な道具、機材を選択すること」で変化量が大きかった。なお、例外的に「書類を書くこと」については職業訓練期間が「4~5か月未満」の者の変化量が統計的に有意に大きかった。

一方、生活スキルについては、「パソコンでメールのやりとりをする」は職業訓練期間が「3~4か月未満」の者の変化量が大きかった。「自分の主張をはっきり言う」「人と交渉する」「自分の能力を正確に把握する」は「4~5か月未満」の者の変化量が大きかった。

図表5-28に、職業訓練期間別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表から、概して、訓練期間が短い「3~4か月未満」の者の方がキャリア意識・就職意識の変化量は大きかった。特に「これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている」「これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない」「自分の長所・短所を理

解する」「就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること」などで、訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。

図表5-27 訓練前後の変化の職業訓練期間別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	3~4か月 未満 N=2586	4~5か月 未満 N=570	5~6か月 N=1377	sig.
書類を書くこと	0.35	0.37	0.25	**
人前で話すこと	0.32	0.29	0.29	
人を説得したり、交渉したりすること	0.31	0.28	0.23	*
人にサービスをすること	0.20	0.20	0.16	
特定の業界の知識を用いること	0.48	0.39	0.40	*
ビジネスマナーを理解していること	0.58	0.54	0.41	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.52	0.44	0.43	**
資材や道具の管理を行うこと	0.42	0.41	0.32	**
機械やパソコンの操作を行うこと	0.66	0.64	0.27	**
体力的にきつい仕事をする	0.27	0.22	0.18	*

生活スキル	3~4か月 未満 N=2586	4~5か月 未満 N=570	5~6か月 N=1377	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.14	0.17	0.18	
時間を守る	0.09	0.16	0.09	
友達をつくる	0.21	0.26	0.20	
自分の主張をはっきり言う	0.19	0.27	0.16	*
人と交渉する	0.23	0.30	0.17	**
自分の能力を正確に把握する	0.33	0.34	0.22	**
パソコンでメールのやりとりをする	0.42	0.38	0.18	**
自分の人生設計を立てる	0.30	0.30	0.25	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-28 訓練前後の変化の職業訓練期間別の違い
(キャリア意識・就職活動に対する意識)

キャリア意識	3~4か月 未満 N=2586	4~5か月 未満 N=570	5~6か月 N=1377	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	0.00	-0.04	-0.06	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.11	0.07	0.05	*
自分の職業生活を主体的に送っている	0.24	0.15	0.21	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.20	0.18	0.10	**
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.10	0.04	-0.09	*
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.09	0.15	0.07	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.14	-0.06	-0.05	*
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.10	0.15	0.07	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.12	-0.05	-0.10	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.01	-0.04	-0.07	

就職意識	3~4か月 未満 N=2586	4~5か月 未満 N=570	5~6か月 N=1377	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.07	-0.04	-0.01	**
自分の長所・短所を理解する	0.13	0.08	0.06	**
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.05	0.09	0.04	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.13	0.10	0.05	**
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.06	0.00	0.02	
就職時の面接でうまく対応すること	0.14	0.11	0.10	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-29に、職業訓練受講給付金の有無別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表に示したとおり、給付金のありなしによって、概して統計的に有意な違いはみられなかったが、わずかに「人を説得したり、交渉したりすること」で「給付金なし」の者の方が訓練前後の変化量が大きかった。

**図表5-29 訓練前後の変化の職業訓練受講給付金の申請の有無別の違い
(職業スキル・生活スキル)**

職業スキル	給付金 あり N=2162	給付金 なし N=2244	sig.
書類を書くこと	0.30	0.35	
人前で話すこと	0.28	0.32	
人を説得したり、交渉したりすること	0.24	0.31	*
人にサービスをすること	0.17	0.21	
特定の業界の知識を用いること	0.44	0.45	
ビジネスマナーを理解していること	0.52	0.53	
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.47	0.49	
資材や道具の管理を行うこと	0.39	0.39	
機械やパソコンの操作を行うこと	0.53	0.55	
体力的にきつい仕事をする	0.22	0.24	

生活スキル	給付金 あり N=2162	給付金 なし N=2244	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.18	0.14	
時間を守る	0.10	0.09	
友達をつくる	0.21	0.21	
自分の主張をはっきり言う	0.19	0.19	
人と交渉する	0.21	0.22	
自分の能力を正確に把握する	0.29	0.30	
パソコンでメールのやりとりをする	0.36	0.33	
自分の人生設計を立てる	0.29	0.28	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、値が大きい方に網かけを付した。

図表5-30に、職業訓練受講給付金の有無別のキャリア意識・就職意識の訓練前後の変化の違いを示した。表に示したとおり、キャリア意識・就職意識でも給付金のありなしによって統計的に有意な違いはあまり見られなかったが、キャリア意識「職業生活に関連する本や雑誌などは、ほとんど読まない」、就職意識「今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか」「自分の長所・短所を理解する」では「給付金なし」の者の方が訓練前後の変化量が大きかった。

図表5-30 訓練前後の変化の職業訓練受講給付金の申請の有無別の違い
(キャリア意識・就職活動に対する意識)

キャリア意識	給付金 あり N=2162	給付金 なし N=2244	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.01	-0.04	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.08	0.10	
自分の職業生活を主体的に送っている	0.22	0.22	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.16	0.18	
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.04	-0.12	*
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.09	0.09	
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.09	-0.11	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.10	0.11	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.10	-0.11	
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.04	-0.03	

就職意識	給付金 あり N=2162	給付金 なし N=2244	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	-0.01	0.08	**
自分の長所・短所を理解する	0.06	0.14	**
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.03	0.07	
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.09	0.10	
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.03	0.06	
就職時の面接でうまく対応すること	0.10	0.14	

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、値が大きい方に網かけを付した。

7. 受講職業訓練分野との関連

図表5-31に、受講職業訓練分野別の職業スキル・生活スキルの訓練前後の変化の違いを示した。表に示したとおり、職業スキル・生活スキルともに「基礎コース」(データ入力や基本的なパソコン操作を中心としたもの)で訓練前後の変化量が、かなり大きかった。特に変化量が大きかったのは、職業スキルの「機械やパソコンの操作を行うこと」、生活スキルの「パソコンでメールをやりとりをする」などのパソコンスキルであった。他に、職業スキルの「ビジネスマナーを理解していること」「作業に必要な道具、機材を選択すること」「資材や道具の管理を行うこと」「特定の業界の知識を用いること」などの、基礎的な職業スキル面で訓練前後の変化量が特に大きかった。

図表5-32に、受講職業訓練分野別のキャリア意識・就職意識の訓練前後の変化の違いを示した。職業スキル・生活スキルほどではないが、キャリア意識・就職意識でも「基礎コース」を受講した者が、訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。特に、キャリア意識の「これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている」、就職意識の「就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること」では変化量が大きかった。その他、「IT分野」「営業・販売・事務」「クリエイト・デザイン」などでも統計的に有意に変化量が大きい箇所がみられた。

図表5-31 訓練前後の変化の受講職業訓練分野別の違い(職業スキル・生活スキル)

職業スキル	IT分野 N=342	営業・ 販売・ 事務 N=497	医療 事務 N=400	介護 福祉 N=928	クリエイ ティブ・デ ザイン N=358	理容・ 美容 N=315	基礎 コース N=673	その他 N=195	sig.
書類を書くこと	0.25	0.42	0.28	0.20	0.24	0.21	0.51	0.23	**
人前で話すこと	0.29	0.37	0.26	0.26	0.29	0.17	0.41	0.27	**
人を説得したり、交渉したりすること	0.24	0.35	0.29	0.22	0.24	0.16	0.41	0.31	**
人にサービスをすること	0.19	0.20	0.18	0.13	0.13	0.09	0.32	0.18	**
特定の業界の知識を用いること	0.37	0.42	0.61	0.45	0.33	0.41	0.53	0.36	**
ビジネスマナーを理解していること	0.42	0.66	0.53	0.42	0.39	0.38	0.80	0.41	**
作業に必要な道具、機材を選択すること	0.45	0.60	0.41	0.34	0.48	0.54	0.63	0.51	**
資材や道具の管理を行うこと	0.39	0.48	0.31	0.22	0.29	0.50	0.55	0.42	**
機械やパソコンの操作を行うこと	0.51	0.75	0.21	0.20	0.21	0.06	1.35	0.28	**
体力的にきつい仕事をする事	0.30	0.22	0.27	0.14	0.10	0.21	0.36	0.29	**

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

生活スキル	IT分野 N=342	営業・ 販売・ 事務 N=497	医療 事務 N=400	介護 福祉 N=928	クリエイ ティブ・デ ザイン N=358	理容・ 美容 N=315	基礎 コース N=673	その他 N=195	sig.
朝、決まった時間に起きる	0.19	0.10	0.11	0.12	0.21	0.20	0.15	0.06	
時間を守る	0.07	0.10	0.13	0.06	0.12	0.11	0.14	0.01	
友達をつくる	0.23	0.21	0.23	0.16	0.21	0.11	0.29	0.14	*
自分の主張をはっきり言う	0.18	0.27	0.12	0.14	0.17	0.11	0.28	0.16	**
人と交渉する	0.22	0.26	0.17	0.17	0.18	0.18	0.34	0.17	**
自分の能力を正確に把握する	0.26	0.39	0.25	0.24	0.27	0.26	0.43	0.25	**
パソコンでメールのやりとりをする	0.28	0.40	0.16	0.15	0.15	0.04	0.90	0.09	**
自分の人生設計を立てる	0.28	0.31	0.23	0.23	0.25	0.17	0.42	0.24	**

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表5-32 訓練前後の変化の受講職業訓練分野別の違い

(キャリア意識・就職活動に対する意識)

キャリア意識	IT分野 N=342	営業・ 販売・ 事務 N=497	医療 事務 N=400	介護 福祉 N=928	クリエイ ティブ・デ ザイン N=358	理容・ 美容 N=315	基礎 コース N=673	その他 N=195	sig.
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	-0.02	0.01	-0.01	-0.06	-0.05	-0.10	-0.01	-0.03	
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	0.14	0.15	0.13	0.04	0.01	0.07	0.18	-0.03	**
自分の職業生活を主体的に送っている	0.28	0.22	0.25	0.18	0.16	0.17	0.29	0.18	
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	0.22	0.19	0.18	0.14	0.07	0.03	0.26	0.25	**
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-0.09	-0.04	-0.07	-0.03	-0.12	-0.04	-0.17	-0.08	
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	0.07	0.12	0.01	0.01	0.14	-0.01	0.21	0.09	**
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-0.15	-0.13	-0.05	-0.09	-0.11	-0.05	-0.14	-0.11	
希望する職業生活が送れるように、努力している	0.10	0.06	0.15	0.07	0.10	0.13	0.14	0.07	
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	-0.17	-0.11	0.01	-0.15	0.02	-0.11	-0.13	0.06	*
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	-0.08	-0.03	-0.11	-0.02	-0.11	-0.14	0.06	-0.11	**

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

就職意識	IT分野 N=342	営業・ 販売・ 事務 N=497	医療 事務 N=400	介護 福祉 N=928	クリエイ ティブ・デ ザイン N=358	理容・ 美容 N=315	基礎 コース N=673	その他 N=195	sig.
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	0.00	0.09	-0.06	0.03	-0.01	-0.10	0.11	-0.04	**
自分の長所・短所を理解する	0.06	0.15	0.13	0.10	0.04	0.05	0.13	0.00	*
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	0.08	0.07	0.03	0.01	-0.02	0.01	0.11	0.04	*
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	0.11	0.14	0.05	0.04	0.05	0.02	0.25	0.03	**
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	0.03	0.08	0.05	-0.02	0.12	-0.01	0.09	0.03	*
就職時の面接でうまく対応すること	0.05	0.11	0.06	0.11	0.15	0.09	0.24	0.16	**

※数値は訓練前後の差(訓練後の値-訓練前の値)。**は1%水準で、*は5%水準で統計的に有意な差がみられた箇所。統計的に有意な差が示された項目に関して、最も値が大きい箇所に網かけ、最も値が小さい箇所に下線を付した。

8. 訓練前後の変化に関する結果(小括)

ここまでの結果を以下に整理する。

(1) 全般的な変化

本章で検討した「職業スキル」「生活スキル」「キャリア意識」「就職意識」のいずれの項目でも訓練後の方が値が大きかった。すなわち、職業スキルについては自信がある、生活スキルについては得意であるといった方向に変化した。また、キャリア意識・就職意識についてはポジティブな方向に変化した。特に変化が大きかった項目を以下に列挙する。

職業スキル：「ビジネスマナーを理解していること」「作業に必要な道具、機材を選択すること」「機械やパソコンの操作を行うこと」

生活スキル：「自分の能力を正確に把握する」「パソコンでメールのやりとりをする」「自分の人生設計を立てる」

キャリア意識：「自分の職業生活を主体的に送っている」「これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている」

就職意識：「自分の長所・短所を理解する」「就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること」「就職時の面接でうまく対応すること」

(2) 個別の変化の特徴

訓練前後の変化が、どのような個人属性を兼ね備えている場合に特に顕著であるのかを検討した。その結果、「職業スキル」「生活スキル」「キャリア意識」「就職意識」のいずれの項目でも、制度利用者個人の特徴によって、特に変化が大きくなる項目がいくつかみられた。

例えば、職業スキルの「特定の業界の知識を用いること」では、「女性」「配偶者なし・子供あり」「高校卒」「生計の主な担い手と同居」「本人収入 0～100 万円」「直近の働き方がパート・アルバイト」「正規就労経験 1 年未満」「雇用保険未加入のため受給せず」「訓練期間 3～4 か月」のいずれかの特徴がある場合に特に訓練前後の変化が大きくなっていた。総じて、生計の担い手と同居する主婦層、または配偶者のいない単身親世帯、またはおもに非正規就労の経験が長いものなど、これまでに十分に特定の業界の知識を蓄積できるようなキャリアを歩まなかった利用者層で変化が大きかったことが分かる。

同様に、職業スキルの「ビジネスマナーを理解していること」では、「女性」「配偶者あり・子供あり」「中学校その他卒」「本人収入なしか 0～100 万円」「生活保護受給者」「働いた経験がない」「正規就労経験 1 年未満」「雇用保険未加入のため受給せず」「訓練期間 3～4 か月」も、おおむね正規就労やもしくは就労そのものの経験が少ないために、基本的なビジネスマナーを習得する機会に恵まれなかった利用者層で特に変化が大きかったことが示された。

また、職業スキルの「機械やパソコンの操作を行うこと」でも、「女性」「配偶者なし・子供あり」「中学校その他卒」「本人収入なし」「働いた経験がない」「雇用保険未加入のため受給せ

ず」訓練期間「3～4か月」については、おもにパソコンの操作に関する面で訓練後の効果が特に大きかったことが推測されるが、ここでもパソコン操作のような基礎的なスキル面での蓄積の機会が得られにくかった利用者層で、訓練前後の変化が大きかったことが示される。

以上を整理すると、個人の特徴によって訓練前後の変化量が異なるのは、特定の業界の知識、ビジネスマナー、パソコンスキルなど、基本的な職業スキル面であり、総じて、それまでに十分な職業スキルの蓄積の機会に恵まれなかった利用者層で変化が大きかったと解釈される。

生活スキル面では、「朝、決まった時間に起きる」の訓練前後の変化量は「配偶者なし・子供なし」「高校卒」「本人収入なし」「働いた経験がない」「正規就労経験なし」「求職活動期間1年以上」「雇用保険未加入のため受給せず」のいずれかの特徴がある場合、特に大きかった。家族がおらず正規就労経験がない場合、失業等で収入がなく無業状態にある場合など、生活リズムが崩れやすい状況に一時的にあった場合、求職者支援訓練の利用によって起床習慣などを取り戻すことが可能となりやすいということが言える。

一方、「パソコンでメールのやりとりをする」は「60代以上」「配偶者なし・子供あり」「中学校卒・その他卒」「本人収入なし」「非正規就労経験5年以上」「雇用保険未加入のため受給せず」「訓練期間3～4か月」の個人属性をもつ場合に訓練前後の変化量が大きかった。高齢者、非高学歴、非正規就労経験が長いなど、パソコン利用機会が乏しく不慣れであった利用者層が求職者支援訓練を利用することによって、生活面でもパソコン等の利用がある程度可能となったことが推測される。

キャリア意識では特に顕著な結果がみられなかったが、キャリア意識の「職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている」では、「高校卒」「直近の働き方がパート・アルバイト」「正規就労経験なし」「訓練期間3～4か月」の場合、訓練前後の変化が大きかった。非正規就労が中心だった利用者層、職業情報の収集に積極的になったことが示される。

また、就職意識については、「今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか」で、10代ではかえって訓練後に低まることが特徴として示された。この年代の若者が、職業経験もあるより年長の制度利用者と共に訓練を受けることで一時的に自信を低下させることは容易に想定しうることであり、また、この年代の若者の一時的な自信低下は必ずしもマイナスの効果とばかりとは考えられないが、一方で、若年者が自信を持ちつつ訓練を受けられるような環境を模索することは、より若年者向けの職業訓練を検討する上での1つの手がかりとなりうる。また、10代の若者にとっては、改めて職業や就労に関する現実を認識できたところを出発点にその後のキャリア形成へと向かうことが可能であり、この点に関する手厚い支援も必要となろう。

なお、受講職業訓練分野との関連については明確な結果が出ており、職業スキル・生活スキルともに「基礎コース」（データ入力や基本的なパソコン操作を中心としたもの）で訓練前後の変化量が、かなり大きかった。特に変化量が大きかったのは、職業スキルの「機械やパソコンの操作を行うこと」、生活スキルの「パソコンでメールのやりとりをする」などのパソコンスキルであった。他に、職業スキルの「ビジネスマナーを理解していること」「作業に必要な

道具、機材を選択すること」「資材や道具の管理を行うこと」「特定の業界の知識を用いること」などの、基礎的な職業スキル面で訓練前後の変化量が特に大きかった。また、キャリア意識・就職意識でも「基礎コース」を受講した者が、訓練前後の変化量が統計的に有意に大きかった。特に、キャリア意識の「これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている」、就職意識の「就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること」では変化量が大きかった。

図表5-33 訓練前後の変化(まとめ)

<p>全般的な変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練前後で比較して、職業スキルは自信がある、生活スキルは得意である、キャリア意識・就職意識はポジティブな方向へと変化した。 ・職業スキルは、「ビジネスマナーを理解していること」「作業に必要な道具、機材を選択すること」「機械やパソコンの操作を行うこと」で特に変化が大きかった。 ・生活スキルは、「自分の能力を正確に把握する」「パソコンでメールのやりとりをする」「自分の人生設計を立てる」で特に変化が大きかった。 ・キャリア意識は、「自分の職業生活を主体的に送っている」「これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている」で特に変化が大きかった。 ・就職意識は、「自分の長所・短所を理解する」「就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること」「就職時の面接でうまく対応すること」で特に変化が大きかった。
<p>個別の変化の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業スキルの「特定の業界の知識を用いること」は、「女性」「配偶者なし・子供あり」「高校卒」「生計の主な担い手と同居」「本人収入0～100万円」「直近の働き方がパート・アルバイト」「正規就労経験1年未満」「用保険未加入のため受給せず」「訓練期間3～4か月」で特に変化が大きかった。 ・職業スキルの「ビジネスマナーを理解していること」は、「女性」「配偶者あり・子供あり」「中学校その他卒」「本人収入なしか0～100万円」「生活保護受給者」「働いた経験がない」「正規就労経験1年未満」「雇用保険未加入のため受給せず」「訓練期間3～4か月」で特に変化が大きかった。 ・職業スキルの「機械やパソコンの操作を行うこと」は、「女性」「配偶者なし・子供あり」「中学校その他卒」「本人収入なし」「働いた経験がない」「雇用保険未加入のため受給せず」「訓練期間3～4か月」で特に変化が大きかった。 ・生活スキルの「朝、決まった時間に起きる」は、「配偶者なし・子供なし」「高校卒」「本人収入なし」「働いた経験がない」「正規就労経験なし」「求職活動期間1年以上」「雇用保険未加入のため受給せず」で特に変化が大きかった。 ・生活スキルの「パソコンでメールのやりとりをする」は、「60代以上」「配偶者なし・子供あり」「中学校卒・その他卒」「本人収入なし」「非正規就労経験5年以上」「雇用保険未加入のため受給せず」「訓練期間3～4か月」で特に変化が大きかった。 ・職業スキル・生活スキルともに「基礎コース」で訓練前後の変化量がかなり大きかった。特に変化が大きかったのは、職業スキルの「機械やパソコンの操作を行うこと」、生活スキルの「パソコンでメールのやりとりをする」などのパソコンスキルであった。

9. 訓練前後の変化に関する多変量解析による分析結果(総括)

訓練前後の変化に関する分析の総括として、以下に、多変量解析を用いた分析を行い、本章で示された結果をさらに整理して示すこととした。

まず、各項目の訓練前後の変化を集約して示すために、職業スキル・生活スキル・キャリア意識・就職意識の各々ごとに、訓練前後の差に対して主成分分析(バリマックス回転あり)を行った。この分析によって、各設問の変化はおもにどのような側面で生じていたかをまとめて示すことが可能となる。

図表5-33から図表5-36に示すとおり、職業スキルは2つの主成分に集約され、そ

れぞれ第1主成分は「テクニカルスキル」、第2主成分は「ヒューマンスキル」と解釈できる結果であった。生活スキルは、第1主成分は「生活スキル全般」、第2主成分は「生活リズム」と解釈出来る結果であった。キャリア意識は3つの主成分に集約され、それぞれ第1主成分は「情報収集」、第2主成分は「将来展望」、第3主成分は「不透明感」と解釈できる結果であった。就職意識は1つの主成分のみとなったため、そのまま「就職意識」とした。

図表5-34 職業スキルの訓練前後の変化量の主成分分析結果

職業スキル	1 テクニカル スキル	2 ヒューマン スキル
書類を書くこと	.25	.48
人前で話すこと	.05	.78
人を説得したり、交渉したりすること	.11	.76
人にサービスをすること	.23	.57
特定の業界の知識を用いること	.44	.34
ビジネスマナーを理解していること	.54	.33
作業に必要な道具、機材を選択すること	.82	.02
資材や道具の管理を行うこと	.79	.05
機械やパソコンの操作を行うこと	.47	.29
体力的にきつい仕事をする	.39	.16
説明率	23.0%	20.7%

※各項目で負荷量が高い箇所に網掛けを付した。

図表5-35 生活スキルの訓練前後の変化量の主成分分析結果

生活スキル	1 生活 スキル 全般	2 生活 リズム
朝、決まった時間に起きる	.05	.82
時間を守る	.11	.82
友達をつくる	.47	.40
自分の主張をはっきり言う	.64	.24
人と交渉する	.70	.10
自分の能力を正確に把握する	.65	.05
パソコンでメールのやりとりをする	.54	.03
自分の人生設計を立てる	.59	.05
説明率	27.5%	19.6%

※各項目で負荷量が高い箇所に網掛けを付した。

図表5-36 キャリア意識の訓練前後の変化量の主成分分析結果

キャリア意識	1 情報 収集	2 将来 展望	3 不透明 感
自分のこれからの職業生活に、大変関心をもっている	.69	.12	-.04
職業生活や仕事に役立つ情報を、積極的に収集するようにしている	.82	.03	-.11
自分の職業生活を主体的に送っている	.61	.29	.01
これからの職業生活について、自分なりに見通しをもっている	.33	.61	-.15
職業生活に関係する本や雑誌などは、ほとんど読まない	-.24	.31	.71
職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	.27	.55	-.01
これからの職業生活で何を目標とすべきか、わからない	-.03	-.28	.72
希望する職業生活が送れるように、努力している	.42	.34	-.10
これから先の職業生活のことは、ほとんど予想がつかない	.06	-.42	.63
自分が期待しているような職業生活を、この先実現できそうである	.05	.71	-.12
説明率	19.3%	17.3%	14.8%

※各項目で負荷量が高い箇所に網掛けを付した。

図表5-37 就職意識の訓練前後の変化量の主成分分析結果

就職意識	1
就職意識	就職意識
今後の就職活動について、どの程度の自信がありますか	.55
自分の長所・短所を理解する	.53
将来のために、今のうちにやっておくべきことの計画を立てること	.61
就職情報誌やインターネットサイトで探し、利用すること	.58
現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと	.58
就職時の面接でうまく対応すること	.60
説明率	32.9%

※各項目で負荷量が高い箇所に網掛けを付した。

上述した訓練前後の変化の主成分得点を性別×年代別×訓練分野別に平均値を求め、値の高かった20位までを図表5-38までにまとめた²。職業スキルについてはヒューマンスキル。テクニカルスキルともに「基礎コース」が上位を占めていることが分かる。職業スキルについては「基礎コース」の受講者で訓練前後の変化量が大きかったことが示される。

図表5-38 職業スキル(ヒューマンスキル・テクニカルスキル)の訓練前後の変化量(主成分得点)の性別×年代別×訓練分野別の平均値(上位20位)

ヒューマンスキル					テクニカルスキル				
性別	年代	訓練分野	N	平均値	性別	年代	訓練分野	N	平均値
女性	20代	基礎コース	112	0.516	男性	30代	基礎コース	55	0.358
女性	50代	基礎コース	52	0.513	女性	40代	基礎コース	128	0.334
女性	30代	基礎コース	107	0.456	男性	40代	基礎コース	37	0.329
男性	60代	基礎コース	13	0.429	女性	50代	医療事務	24	0.329
男性	20代	その他	14	0.371	女性	50代	営業・販売・事務	34	0.312
女性	60代	介護福祉	19	0.364	男性	10代	介護福祉	13	0.306
女性	50代	営業・販売・事務	34	0.346	女性	50代	基礎コース	52	0.296
女性	30代	営業・販売・事務	115	0.259	女性	50代	理容・美容	13	0.279
男性	60代	IT分野	12	0.248	男性	20代	営業・販売・事務	37	0.210
男性	40代	営業・販売・事務	24	0.240	男性	60代	IT分野	12	0.171
女性	40代	基礎コース	128	0.231	女性	40代	医療事務	68	0.170
女性	50代	クリエート	11	0.207	女性	20代	基礎コース	112	0.168
男性	30代	基礎コース	55	0.206	女性	30代	基礎コース	107	0.161
男性	50代	営業・販売・事務	14	0.189	男性	50代	基礎コース	22	0.155
男性	50代	基礎コース	22	0.186	女性	30代	IT分野	33	0.118
女性	40代	その他	19	0.185	女性	40代	営業・販売・事務	80	0.114
男性	40代	基礎コース	37	0.172	男性	50代	営業・販売・事務	14	0.111
女性	40代	営業・販売・事務	80	0.161	男性	20代	基礎コース	49	0.107
女性	30代	IT分野	33	0.159	女性	30代	その他	34	0.103
女性	20代	営業・販売・事務	92	0.145	男性	50代	クリエート	11	0.097

同様に、図表5-39に示されるとおり、生活スキルの中でも「生活リズム」は「基礎コース」の受講者がかなり訓練前後の変化量が大きい。一方、「生活スキル全般」では明確な傾向が示されなかった。

² なお、主成分得点は、元得点を主成分負荷量によって重みづけて合計した値であり、平均値0、分散は1となるように調整される。この主成分得点を、性別×年代別×訓練分野別で掛けあわせてできるグループごとに平均値を求めて順に並べて検討を行った。

**図表5-39 生活スキル(生活リズム・生活スキル全般)の
訓練前後の変化量(主成分得点)の性別×年代別×訓練分野別の平均値(上位20位)**

生活リズム					生活スキル全般				
性別	年代	訓練分野	N	平均値	性別	年代	訓練分野	N	平均値
男性	60代	IT分野	12	0.535	女性	60代	介護福祉	19	0.326
女性	20代	基礎コース	112	0.445	女性	20代	IT分野	26	0.262
男性	50代	基礎コース	22	0.427	女性	30代	理容・美容	103	0.259
男性	30代	基礎コース	55	0.420	女性	10代	介護福祉	10	0.257
女性	30代	基礎コース	107	0.382	女性	20代	クリエート	61	0.218
男性	60代	基礎コース	13	0.364	男性	30代	介護福祉	77	0.186
男性	40代	基礎コース	37	0.348	男性	20代	IT分野	67	0.186
女性	50代	基礎コース	52	0.333	男性	50代	基礎コース	22	0.185
女性	40代	基礎コース	128	0.311	男性	40代	その他	27	0.177
女性	30代	営業・販売・事務	115	0.275	女性	40代	理容・美容	35	0.170
男性	20代	基礎コース	49	0.254	男性	50代	IT分野	22	0.156
女性	50代	医療事務	24	0.206	男性	30代	クリエート	37	0.151
女性	20代	営業・販売・事務	92	0.204	男性	50代	クリエート	11	0.114
女性	20代	IT分野	26	0.179	女性	30代	クリエート	79	0.111
男性	30代	営業・販売・事務	30	0.140	女性	40代	基礎コース	128	0.106
女性	30代	その他	34	0.130	女性	50代	営業・販売・事務	34	0.100
男性	50代	営業・販売・事務	14	0.101	男性	20代	営業・販売・事務	37	0.087
女性	50代	営業・販売・事務	34	0.081	男性	30代	その他	23	0.078
男性	30代	介護福祉	77	0.080	女性	30代	介護福祉	142	0.066
女性	50代	クリエート	11	0.072	男性	20代	クリエート	47	0.066

図表5-40は就職意識に関する結果であるが、ここでも「情報収集」「将来展望」「不透明感」の各主成分得点の平均値に際だった特徴はみられなかった。

**図表5-40 就職意識(情報収集・将来展望・不透明感)の
訓練前後の変化量(主成分得点)の性別×年代別×訓練分野別の平均値(上位20位)**

情報収集					将来展望					不透明感				
性別	年代	訓練分野	N	平均値	性別	年代	訓練分野	N	平均値	性別	年代	訓練分野	N	平均値
男性	20代	その他	14	0.666	女性	60代	基礎コース	13	0.531	女性	50代	営業・販売・事務	34	0.497
男性	50代	クリエート	11	0.455	男性	40代	基礎コース	37	0.426	男性	40代	その他	27	0.333
女性	60代	介護福祉	19	0.409	男性	60代	介護福祉	11	0.372	男性	30代	営業・販売・事務	30	0.260
女性	10代	介護福祉	10	0.302	女性	50代	クリエート	11	0.354	男性	60代	介護福祉	11	0.232
男性	20代	IT分野	67	0.238	男性	50代	基礎コース	22	0.350	女性	20代	その他	22	0.201
男性	20代	営業・販売・事務	37	0.221	男性	30代	営業・販売・事務	30	0.322	女性	20代	医療事務	130	0.176
女性	50代	営業・販売・事務	34	0.218	男性	50代	営業・販売・事務	14	0.314	女性	10代	理容・美容	13	0.163
男性	50代	IT分野	22	0.200	男性	30代	介護福祉	77	0.295	男性	20代	IT分野	67	0.143
女性	20代	基礎コース	112	0.173	男性	50代	その他	14	0.266	女性	50代	医療事務	24	0.141
女性	30代	基礎コース	107	0.168	女性	20代	IT分野	26	0.247	女性	30代	クリエート	79	0.138
女性	40代	クリエート	40	0.152	男性	40代	その他	27	0.227	男性	20代	クリエート	47	0.136
女性	50代	理容・美容	13	0.148	男性	40代	IT分野	43	0.173	女性	30代	理容・美容	103	0.135
女性	20代	医療事務	130	0.137	男性	30代	基礎コース	55	0.122	女性	30代	営業・販売・事務	115	0.130
女性	50代	基礎コース	52	0.131	男性	20代	クリエート	47	0.119	女性	30代	IT分野	33	0.125
男性	40代	基礎コース	37	0.126	女性	20代	クリエート	61	0.093	女性	40代	介護福祉	147	0.114
女性	20代	営業・販売・事務	92	0.123	女性	30代	基礎コース	107	0.083	女性	40代	その他	19	0.108
女性	50代	医療事務	24	0.098	女性	30代	介護福祉	142	0.070	女性	50代	基礎コース	52	0.081
男性	40代	介護福祉	91	0.097	女性	30代	理容・美容	103	0.069	女性	40代	クリエート	40	0.069
女性	40代	IT分野	30	0.084	女性	40代	基礎コース	128	0.061	男性	50代	その他	14	0.054
女性	30代	その他	34	0.079	女性	50代	介護福祉	96	0.060	女性	20代	IT分野	26	0.043

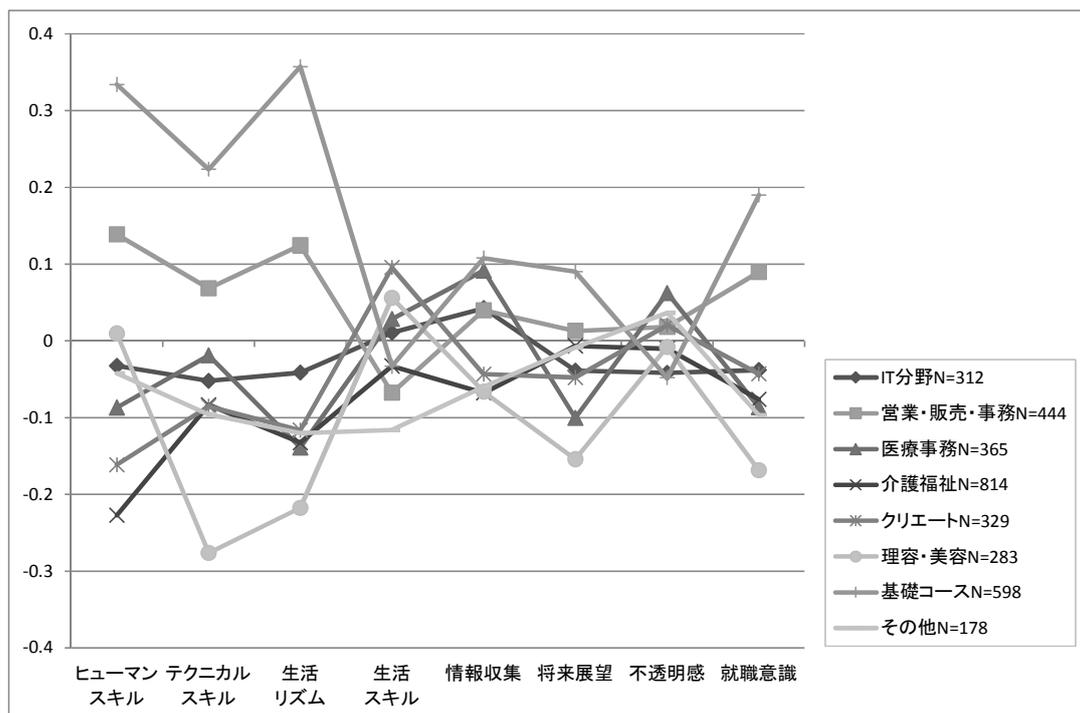
図表5-41は、就職意識の訓練前後の変化量を主成分得点で検討したものであるが、ここでは若干、「基礎コース」がまとまっているのが分かる。

図表5-41 就職意識の訓練前後の変化量(主成分得点)の性別×年代別×訓練分野別の平均値(上位20位)

就職意識				
性別	年代	訓練分野	N	平均値
男性	20代	その他	14	0.493
男性	50代	基礎コース	22	0.327
男性	30代	営業・販売・事務	30	0.249
女性	60代	介護福祉	19	0.239
男性	20代	基礎コース	49	0.233
女性	30代	その他	34	0.230
女性	30代	基礎コース	107	0.227
男性	40代	基礎コース	37	0.213
女性	50代	基礎コース	52	0.212
男性	60代	基礎コース	13	0.210
男性	30代	基礎コース	55	0.195
男性	40代	介護福祉	91	0.186
男性	60代	IT分野	12	0.175
女性	20代	その他	22	0.169
女性	30代	営業・販売・事務	115	0.153
男性	30代	クリエイト	37	0.152
男性	20代	営業・販売・事務	37	0.138
女性	40代	基礎コース	128	0.136
男性	50代	営業・販売・事務	14	0.127
女性	20代	基礎コース	112	0.124

ここまでの結果から、受講職業訓練分野の中でも、特に「基礎コース」の訓練前後の変化量が大きかったことが示されたため、また、別の形で検討するために、図表5-42には、訓練前後の変化の各主成分得点の受講職業訓練分野別の違いを示した。やはり、こうした検討を行っても、ヒューマンスキル、テクニカルスキル、生活リズム、就職意識面での値(訓練前後の変化量の主成分)は大きいことが分かる。

図表5-42 訓練前後の変化の各主成分得点の受講職業訓練分野別の違い



図表5-43では、訓練前後の変化の各主成分得点に影響を与える要因を重回帰分析で検討した結果であるが、この結果からでも値が大きい箇所（標準偏回帰係数が.10以上の箇所）は、「基礎コース」の要因であり、基礎コースを受講している場合、ある程度、顕著に「ヒューマンスキル」「テクニカルスキル」「生活リズム」「就職意識」の側面に影響を与えるということと言えるであろう。

図表5-43 訓練前後の変化の各主成分得点に影響を与える要因(重回帰分析)

	ヒューマン スキル	テクニカル スキル	生活 リズム	生活 スキル	情報 収集	将来 展望	不透明 感	就職 意識
男性	-08							
年齢								
IT分野								
営業・販売・事務	.07	.05	.09					.06
医療事務								
介護福祉	-06							
クリエイティブ・デザイン								
理容・美容		-06						
基礎コース	.15	.11	.19		.05	.05	.05	.11
その他								
調整済み R2 乗	.04**	.02**	.04**		.00**	.00**	.00**	.01**

※ステップワイズ式(変数選択式)の重回帰分析結果。表中の数値は1%水準で有意な標準偏回帰係数。標準偏回帰係数が.10の箇所に網掛けを付した。